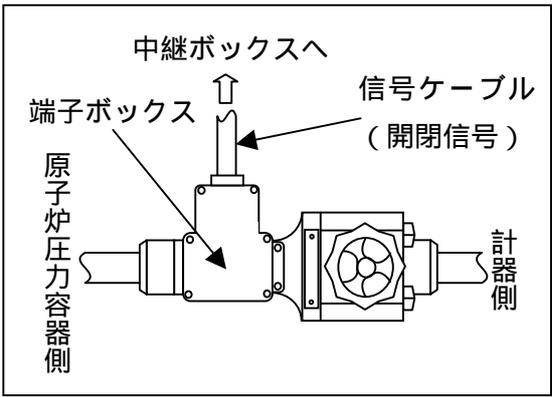
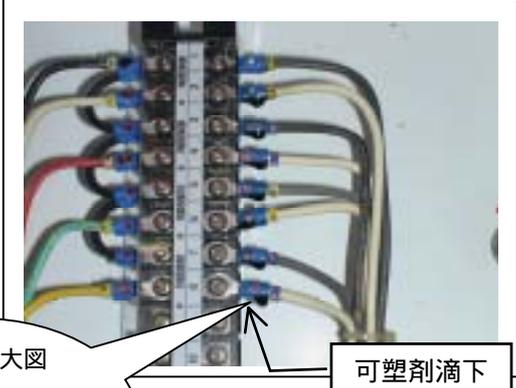
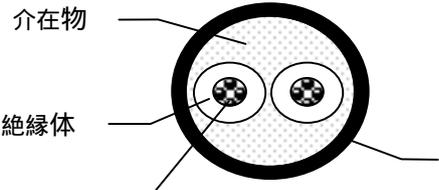


女川原子力発電所 定期検査・主要機器点検情報

No. 3 (改)

(平成18年9月分)

号機	2号機	定期検査	第8回定期検査
件名	残留熱除去系(A)流量制限逆止弁端子ボックス内の油たまりについて		
月日	平成18年9月2日(土)	発生	発見 確認
場所	原子炉建屋	設備	残留熱除去系
		設備区分	安全上重要な系統
設備概要	<p>残留熱除去系は、原子炉を停止した後に、炉心より発生する崩壊熱を除去・冷却するための系統で、冷却材喪失事故時には非常用炉心冷却系(ECCS)や原子炉格納容器を冷却する系統として機能するように設計されています。</p> <p>流量制限逆止弁は原子炉圧力容器廻りの配管に接続する計装配管に取り付けられ、仮に原子炉圧力容器廻りの配管と反対側の計装配管が破損しても原子炉圧力容器廻りの配管側の流体を閉じこめるための隔離弁です。</p>		
所見	<ul style="list-style-type: none"> 残留熱除去系(A)流量制限逆止弁の点検において端子ボックスを開放したところ、端子ボックス内および中継ボックス内に油たまりを発見しました(9月2日)。 確認された油を分析した結果、ケーブルの外被(シース)に含まれている可塑剤(エステル系の化合物)であることが判明しました(10月4日)。 また、類似箇所(12, 677箇所)の点検を行った結果、65箇所について同様の事象が確認されました(10月27日)。 油(可塑剤)の発生が確認されたケーブルについて、絶縁性能、引張強度、難燃性試験を行い性能に問題のないことを確認いたしました(10月27日)。 今後は、当該ケーブルも含め油(可塑剤)の発生が確認されたケーブルについて、継続監視してまいります。 		
<p style="text-align: right;">流量制限逆止弁端子ボックスの中継端子台の線芯からの可塑剤滴下 写真</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div> <div style="margin-top: 10px;">  <p style="text-align: center;">ケーブル断面図</p> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>外皮(シース) (可塑剤含有)</p> <p>介在物: 押さえテープ</p> <p>麻ひも</p> <p>絶縁体: 架橋ポリエチレン</p> <p>線芯: 銅より線</p> </div>			